

学科基礎科目の目次 (2017年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(16E・17E)の科目区分別に編成されています。15E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

経済学科

統 計 学	1	経 済 と 数 学	2
ミ ク ロ 経 済 学	II	マ ク ロ 経 済 学	II
政 治 経 済 学	I	計 量 経 済 学	I
経 済 政 策	I	社 会 政 策	A
財 政 学	A	金 融 論	I

経営システム学科

経 営 戦 略 論	A	原 価 会 計 論	18
現 代 企 業 論	19	リ ス ク と 保 険	21
経 営 組 織 論	A	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	A
流 通 シ ス テ ム 論	A	会 計 学 総 論	28
管 理 会 計 論	29		

地域社会システム学科

観 光 学 概 論	30	文 化 社 会 論	31
日 本 社 会 経 済 史	33	社 会 と 言 語	34
ま ち づ く り 論	35	外 国 語 演 習 I (英 語)	37
外 国 語 演 習 I (ド イ ツ 語)	38	外 国 語 演 習 I (中 国 語)	39
エ コ ツ ー リ ズ ム 論	40		

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310151) 統計学 Statistics 統計学の基礎	科目区分	時間割 後期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	統計学入門	
学習時間 授業90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 統計学の基礎は大きく記述統計と統計的推測に分けられる。このうち「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計を中心に学習する。「統計学」では標本を取り出してそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測について学習する。この2科目で大学学部基礎レベルの統計学を学習する。			
授業の目的 全ての判断の根拠を問えばそれは統計学である。実際のデータの持つ情報を読み取り、判断のよりどころを得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1年次前期の「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計の考え方が理解できるようになる。1年次後期の「統計学」では、標本を取り出しそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測の考え方を理解できるようになる。			
成績評価の方法と基準 期末試験 (100点満点) による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 講義ノートによる板書講義。テキストはその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。宿題を出す場合がある。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。 この科目は基本的に対面で授業を行う予定だが、状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合がある。			
【授業計画】 第1回。母集団と標本 第2回。確率と確率変数 (確率の定義、条件付き確率と独立性、確率変数の定義) 第3回。確率分布 (ベルヌーイ分布、二項分布、確率分布の平均と分散) 第4回。大数の法則 (確率変数の期待値と分散、大数の法則) 第5回。中心極限定理 (標本平均の分布、標本平均の平均と分散、正規分布) 第6回。正規分布 (標準正規分布と正規分布表、正規分布の確率計算) 第7回。正規分布以外の分布 (カイ2乗分布、t-分布) 第8回。標本平均値の分布 第9回。後半イントロダクション (統計的推測とは何か)、母数の点推定 (不偏性) 第10回。母平均の区間推定 (母分散既知の場合) 第11回。母平均の区間推定 (母分散未知の場合) 第12回。母分散の区間推定 (F-分布) 第13回。統計的仮説検定 (母分散既知の場合) 第14回。統計的仮説検定 (母分散未知の場合) 第15回。調査結果の表現 [期末試験]			
【自学自習に関するアドバイス】 毎回、テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間、事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題 (練習問題) を課すので、それを解くのに2時間が基本パターン。			
教科書・参考書等 教科書:『プレステップ 統計学Ⅱ 推測統計学』, 稲葉由之著, 弘文堂, 定価1800円＋税			
オフィスアワー 月曜日3限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 「統計学入門」と「統計学」の2科目で、大学学部基礎レベルの統計学を学習する。前期の「統計学入門」を必ず履修しておくこと。 2. 2/3以上出席していない場合、成績は自動的に不可になる。 3. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。 4. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 310130) 経済数学 Mathematics for Economics 経済数学 Economics and Mathematics	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 L	単位数 2	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目	
	履修推奨科目	履修にあたって必要とされる科目はありません。	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済学ではツールとして数学が積極的に活用されています。しかしこの点が経済学を学習する際の障害になる場合も多いようです。そこでこの講義では、経済学を学習するための数学的トレーニングとして線形代数の基本的内容を、経済学における活用例を素材に学びます。 高校数学の復習から始め、経済学では数学をどのように使うのかを例を交えながら解説します。			
授業の目的 授業の目的・達成目標 1. 線形代数の基本的内容の学習を通じて、経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につけること。 2. 数学への苦手意識がある人は、それを解消すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 直線について問題をとける。 2. 行列は専門的につかえる。			
成績評価の方法と基準 宿題&class-work (4割) と期末試験 (6割) により評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業及び学習の方法 授業は主に板書によります。宿題&class-workとして演習問題を課します。 予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です 1. 産業連関表 (2回) 2. ベクトルと行列 (4回) 3. 逆行列と連立方程式 (4回) 4. 行列の固有値 (3回) 5. 行列ゲームと線形計画法 (2回) 6. まとめ (1回)			
進行状況により、変更をする可能性があります			
教科書・参考書等 教科書は使用しませんが、参考書は以下のものです。 石村園子 (2000) 『やさしく学べる線形代数』 共立出版。 その他参考書については開講時に紹介します。			
オフィスアワー 毎日18時以降			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意は初回授業で説明します。			

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312411) ミクロ経済学Ⅱ Microeconomics Ⅱ	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	ミクロ経済学I	
	履修推奨科目	経済数学入門, 経済数学, ミクロ経済学I	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備時間15時間+事後学習45時間)			
授業の概要 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部の様々な科目がミクロ経済学とマクロ経済学を土台にしています。マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し、ミクロ経済学では、経済を構成する個々の消費者や企業の行動に注目します。そして個々の行動(最適化)と相互関係(均衡)を考慮して、モノやサービスの市場や産業、さらには経済全体を分析します。 ミクロ経済学Iとミクロ経済学IIでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。後半のこの講義では、(1)経済余剰と市場均衡の効率性、(2)生産関数と企業行動、(3)一般均衡分析、(4)市場の失敗、の各トピックを扱います。			
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、経済余剰と市場均衡の効率性、生産関数と企業行動、一般均衡分析、市場の失敗の各トピックを習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・市場均衡が持つ資源配分の性質を、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 ・ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にいかん反応するか説明できる。 ・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムと性質を、簡単な一般均衡の枠組みを用いて説明できる。 ・市場の失敗とはいかなるもので、その解決のために経済政策がどのように有効となるか、ミクロ経済学の観点から説明できる。 			
成績評価の方法と基準 宿題(30%)と期末試験(70%)で評価します。詳しくは初回授業で説明します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 ガイダンス, 余剰分析(1) 第2回 余剰分析(2) 第3回 余剰分析(3) 第4回 余剰分析(4) 第5回 企業行動(1) 第6回 企業行動(2) 第7回 企業行動(3) 第8回 企業行動(4) 第9回 企業行動(5) 第10回 一般均衡分析(1) 第10回 一般均衡分析(2) 第12回 一般均衡分析(3) 第13回 一般均衡分析(4) 第14回 市場の失敗(1) 第15回 市場の失敗(2), まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は講義形式で行います。理解度確認のためのクイズに答える時間を設けます。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・受講生は復習を重視した自学自習を行ってください。授業内容は連続しているため、授業前に必ず前回の内容を再確認してください(15時間)。授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み、計算や作図を自分の手でを行い、自分の理解を深めてください(30時間)。経済学的な考え方の習得には、単に授業内容を学習するだけでなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連を考える、つまり理論の世界と現実の世界の間で復思考を行う姿勢が不可欠です。(15時間) ・各回のキーワードは以下の通りです。 第1章(1回～4回): 消費者余剰, 生産者余剰, 社会的余剰 第2章(5回～9回): 生産関数, 限界生産性, 利潤最大化, 要素需要関数, 総費用関数 第3章(10回～13回): エッジワースボックス, パレート効率, 契約曲線, 交換経済の一般均衡, 厚生経済学の基本定理 第4章(14回～15回): 外部性, 社会的限界費用, コースの定理, ピグー税			

教科書・参考書等

【教科書】使用しません。授業資料を配布します。

【参考書】自学自習用に参考書は必要です。自分に合うテキストを手元に用意してください。

- ・ 芦谷政浩(2009)『ミクロ経済学』有斐閣。
 - ・ 武隈慎一(2016)『ミクロ経済学』新版, 新世社。
- その他は初回授業で紹介します。

オフィスアワー 火曜日 4時限目 (予定), 南4号館3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義内容は積み上げ式ですから, 継続的な出席が単位取得の大前提です。試験直前の詰め込み勉強だけでは単位取得は困難です。その他は初回授業で説明します。

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312412) マクロ経済学Ⅱ Macroeconomics Ⅱ	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ、上級マクロ経済学、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ、上級マクロ経済学、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、上級ミクロ経済学	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (予習復習40時間+提出課題20時間)			
授業の概要 マクロ経済学は、国民所得 (GDP)、消費、投資、利子率、物価水準、失業率、輸出・輸入などの動きを通して、経済全体の活動について分析を行う学問です。これらの数値は、新聞やテレビのニュースで取り上げられることも多いため、皆さんの生活にも身近な学問だといえるでしょう。また、マクロ経済学はミクロ経済学、計量経済学と並んで経済学の基礎科目であり、他の専門科目や現実の経済活動を理解する上でも、この講義で扱う内容をしっかりと身に付けておくことが重要です。 この授業では、「マクロ経済学Ⅰ」で学んだ基本モデルの知識を前提に、発展内容を扱うモデルについて講義すると共に、問題演習を通じて理解の定着をはかっていきます。 「マクロ経済学Ⅰ」の単位が取得できていない場合も、相応の自主学習など各自の努力で補うことで、履修は可能です。興味のある人は、ぜひ挑戦してみてください。			
授業の目的 マクロ経済学に対する知識を深め、基本的な経済理論モデルの理解を定着させることを目的としています。 また、ニュースで報じられている実際の経済現象について関心を払えるようになると共に、理論モデルの知識に基づいた経済学的分析が加えられるようになることを目指しています。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・「45度線モデル」、「IS-LMモデル」、「AD-ASモデル」の基本を理解し、標準的な計算問題 (公務員試験問題レベル) を正確に解くことができる。 ・「45度線モデル」、「IS-LMモデル」、「AD-ASモデル」を使って、実際の経済現象が起きた場合のマクロ経済へ与える影響を定性的に説明することができる。 ・私たちを取り巻く人口動態の変化やグローバル社会で生じる様々な事象が、日本、及び諸外国のマクロ経済に与える影響について、経済学的見地から簡潔に説明することができる。 <p>※試験では上記以外のことも出題します</p>			
成績評価の方法と基準 期末試験の他に、複数回の課題を課し、「期末試験 70%+課題点 30%」の『総合得点』を用いて評価します。ただし、「期末試験の素点が60点以上であること」を単位取得の条件とします。受講人数が一定数未満であれば、グループワークによる課題も実施します。 他に、宿題、小レポート、確認テストなどを行い、成績評価の加点材料 (=未提出でも減点なし) として用いる場合もあります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 1. 『授業のガイダンス』(グループワーク予定あり) 2～6. 『45度線モデル』と『IS-LMモデル』の復習 7～11. 『AD-ASモデル』 12～15. 『現代トピックスと授業のまとめ』(グループワーク予定あり)			
受講生の理解度等に応じて、上記の計画が変化することもあります。 自主学習のアドバイス 1. 授業用レジュメやテキストを準備しておくと共に、配布プリントを参考に、この授業で使用する記号の表記方法を確認しておきましょう。(2時間) 2～6. 【予習メイン】「マクロⅠ」の範囲内容については理解できていることを前提に授業を進めます。あらかじめ予習 (=マクロⅠの復習) をしておく、理解の助けになります。(20時間) 7～11. 【復習メイン】講義内容の理解に加えて、講義範囲外の知識も各自でテキストを読みながら身に付けていきましょう。(20時間) 12～14. 【復習メイン】新聞等のニュースにも毎日関心を払って、経済モデルとの関連性を各自で考えてみましょう。(12時間) 15. 期末試験に向けて総復習しましょう。(6時間)			

教科書・参考書等

必読の教科書は指定しませんので、各自で自分にとって理解しやすいテキストを探してください。

オフィスアワー 初回の授業でお知らせします

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※授業中の私語や緊急時以外の出入りなど周囲の受講生の迷惑になる行為は厳禁です。受講マナーが守れない場合は、単位を認定しません。

※キーボードによる周囲への騒音と授業環境への影響から、授業中のPC・スマートフォンの使用は認めません。投影したスライドや板書の撮影も禁止します。(個別に対応が必要な場合は、申し出て下さい)

※授業でわからない点や理解できなかったところは、授業前後やオフィスアワーの時間にぜひ質問しに来て下さい。質問者の疑問が解決するだけでなく、その後の授業内容の改善にも大変役立ちます。

※グループワークを数回実施予定です。

※授業で使用するレジュメ(60~80枚程度)はmoodleから各自プリントアウトしてもらう予定です。

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312031) 政治経済学 I Political Economy I	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅱ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 マルクス経済学の方法に基づき、資本主義の原理についての基礎的な講義を行う。資本主義とは、市場を中心とした経済システムである。このような経済システムは普遍的なものではなく、資本主義以前には、市場は社会の付属物にすぎなかった。資本主義は、歴史上のある時点で成立した特殊な経済システムなのである。たとえば、店頭に並んでいる商品や財布のなかの貨幣は、一見すると、当たり前のあるものに見える。しかし、資本主義を特殊歴史的なシステムとして捉えるならば、決して自明のものでないことが分かってくる。この講義では、商品、貨幣、資本などの資本主義の諸要素を当然の前提とするのではなく、「なぜ商品には価格がつくのか」、「市場に貨幣が存在する理由は何か」、「資本はどのようにして利潤をあげることができるのか」といった一見単純だが、決して簡単ではない問題についてじっくりと考えていく。			
授業の目的 われわれが目目の当たりにする現実の資本主義は、きわめて複雑である。本講義では、マルクス経済学の基礎的知識を習得すると同時に、この複雑さの背後にある資本主義の基本構造を理解するために必要な抽象的思考力の獲得を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義の特徴を述べることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 ・マルクス経済学の基本的概念を説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ・剰余価値の発生メカニズムを論理的に説明することができる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 小テストと期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト20点、期末試験80点とする。 ※但し、対面での小テストが行えなくなった場合には成績評価の方法・基準を変更することがありうる。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. ガイダンスとイントロダクション (政治経済学とは何か) 2. 政治経済学の対象と方法(1) 3. 政治経済学の対象と方法(2) 4. 政治経済学の対象と方法(3) 5. 商品とは何か 6. 貨幣の機能 7. 資本の形式 8. 第1回小テスト (対面) 9. 労働と生産(1) 10. 労働と生産(2) 11. 価値形成・増殖過程(1) 12. 価値形成・増殖過程(2) 13. 剰余価値の生産 14. 資本主義的生産方法 15. 第2回小テスト (対面)			
【授業及び学習の方法】 板書および口述筆記による。			
この授業は基本的に対面で行う。なお状況によっては授業形態を遠隔に変更する可能性がある。			
【自学自習ためのアドバイス】 各回ごとにwebに掲載の講義概要を用いた予習 (2時間) と授業中に作成した自筆ノートを用いた復習 (2時間) を行うこと。			

教科書・参考書等

教科書：使用しない

参考書：小幡道昭『経済原論』（東京大学出版会）

沖公祐『「富」なき時代の資本主義——マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館）

オフィスアワー 初回時に指定する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「政治経済学Ⅱ」を併せて受講することを強く推奨する。

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312111) 計量経済学 I Econometrics I 計量経済学入門	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目 経済学II	統計学入門, 統計学, マクロ経済学 I, 計量経済学II	
	履修推奨科目	統計学入門, 統計学, マクロ経済学 I, 計量経済学II	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 計量経済学 (Econometrics) の基礎について講義する。経済理論 (仮説) が、現実の経済の動きをうまく説明しているかどうか検証するための統計学的な手法を身につける。			
授業の目的 計量経済学の基本的な考え方を習得し、実際の経済統計データを使って計量経済分析ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 基本統計量, 散布図と相関係数を理解する。 回帰モデルと最小2乗法の考え方を理解する。 Excelを使って回帰分析ができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 期末試験 (100点満点) で60点以上を合格とする。期末試験得点が60点に満たない場合, その他得点 (課題レポートや宿題を課す場合はその得点) を期末試験得点に加算した得点が60点以上であればC (可) とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【講義の方法】 板書講義。配布資料を使って説明する場合がある。テキスト付録のWeb資料でExcel実習を行う場合がある。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。</p> <p>この科目は基本的に対面で授業を行予定だが、状況によっては授業形態を全ての授業回または一部の授業回で遠隔へ変更する場合がある。</p> <p>【講義計画】 第1回: 計量経済学とは何か, 授業ガイダンス 第2回: データの整理 (1): 基本統計量: 平均, 分散ほか 第3回: データの整理 (2): 散布図と相関係数 第4回: 最小2乗法の考え方: 散布図への回帰直線のあてはめ 第5回: 回帰モデルのあてはまりの良さ: 決定係数 第6回: 標準的線形回帰モデルの仮定とデータの生成過程 第7回: 最小2乗推定量の導出 第8回: 最小2乗推定量の期待値と不偏性 第9回: 最小2乗推定量の分散と効率性, 一致性 第10回: 回帰係数の有意性検定: t-値 (t-検定) 第11回: 誤差項の系列相関とダービン・ワトソン検定 第12回: Excel分析ツールによる回帰分析: 実習 第13回: Excelによる消費関数の推定: 課題処理 第14回: 単回帰モデルから重回帰モデルへ 第15回: 授業の総括と期末試験について [期末試験]</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 毎回, テキストと配布するレジュメを使った事前学習を2時間, 事後学習はWeb資料でのExcel実習2時間あるいは章によっては宿題 (練習問題) を課すので, それを解くのに2時間が基本パターン。</p> <p>【統計検定3級及び2級試験の受験を希望する学生へ】 統計検定3級試験の受験を希望する学生は, 2020年6月試験より出題範囲が広がり, これまでは記述統計, 確率, 母集団と標本までだったが, これに推定, 仮説検定, 単回帰分析まで含まれるようになるので, 計量経済学Iおよび計量経済学IIの履修を勧める。統計検定2級試験の受験を希望する学生は, 重回帰モデルの推定と結果の解釈を問う問題が出題されることがあるので計量経済学IIの履修は必須。</p>			

教科書・参考書等

教科書：『入門計量経済学』 山本拓・竹内明香著 新世社 定価2500円＋税

参考書：随時指示する。

オフィスアワー 月曜日3限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 統計学入門，統計学の単位を取得済みであること。
2. 2/3以上出席していない場合，成績は自動的に不可になる。
3. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。
4. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を原則禁止する。

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 312125) 経済政策 Economic Policy	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	政治経済学I	
	履修推奨科目	政治経済学I	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学修 15時間 + 事後学修 45時間)			
<p>授業の概要</p> <p>経済政策の基本的な枠組みについて解説する。 受講者は、本講義と並行して、政府や国会、日本銀行などで、どのような政策の発動が議論されているか、ニュースに注意を払うことが望ましい。 アクティブ・ラーニング型授業を導入する。授業内容への深い理解に結び付けるためのワーク*を行う。 * 受講希望者が150名未満の場合は対面授業でグループ・ワークを行う。受講希望者が80名以上200人未満の場合は遠隔システムを用いたでグループ・ワークを行う。受講希望者が200名以上の場合は遠隔遠隔システムを用いた個人ワークを行う。 なお、200名未満の場合でも、グループ・ワークを苦手とする者は、個人ワークも認めるので、初回の講義前に申し出ること。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>経済政策の基礎を理解することを目的とし、さまざまな疑問に対する回答を、自ら導き出せるようにする。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策の基礎について説明できる。 2. 政府の役割や機能について説明できる。 3. 経済政策の課題について説明できる。			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>ワークへの取り組み20点、講義レポート20点、小テスト10点、期末試験50点の合計100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p> <p>・授業計画</p> <p>板書筆記・口述筆記による。</p> <p>(1) 経済学と経済政策 (2) 経済学とは何か (3) 経済政策とは何か (4) 経済政策を理解するためのキーワード(国民経済計算) (5) 経済政策を理解するためのキーワード(雇用統計) (6) 政府を概観する (7) 政府の役割 (8) 市場の失敗 (9) 政府の失敗 (10) 政府の課題 (11) 日本経済をめぐる課題 (12) 長期不況とデフレ経済 (13) 長期不況からの脱出 (14) 経済政策をめぐる諸問題 (15) 新時代の経済政策</p> <p>・自学自習に関するアドバイス</p> <p>講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること(各回1時間)。 講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、深く復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること(各回3時間)。</p> <p>この科目は全回対面授業を予定している。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により、全てまたは一部を遠隔へ変更する可能性がある。</p>			

教科書・参考書等

・教科書

『ゼロからはじめる経済入門』有斐閣コンパクト、2019年、2300円。講義室への持参は求めないが、講義内容は教科書に沿って進めるので、事前に熟読し予習に用いること。なお、期末試験問題の素材としても利用する。

・参考書

経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版、4200円、を指定する。この科目だけではなく、全ての経済学・経営学の科目に適合する学修用。経済学部生の必携辞書と考えた方がよい。

一般的な参考書として、田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策（第4版）』有斐閣ブックス、2011年、2900円、を推薦する。

オフィスアワー 火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

アクティブ・ラーニング型授業で学修する。授業への積極的な関わりを期待している。出席は必須。止むを得ず欠席した場合は、必ず自学自修で追いつくことを旨とし、放置しないこと。

ナンバリングコード B2ECN-badE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312131) 社会政策A Social Policy A	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 badE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目	社会政策B	
	履修推奨科目	経済政策、財政学、福祉経済論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習10時間+事後学習50時間)			
授業の概要 私たちはこれからいろんな試練を乗り越えなければならない。まず最初に、就職という難関が待っている。希望どおりに就職できたとして、今度は厳しい競争社会のなかで生活の糧を稼がなければならない。死ぬまで働き続けるわけにもいかない。老後はどうする？ 私たちは生活上の諸問題をいろんな手段で解決しなければならない。自分自身で処理できることもあれば、他者の助けを必要とすることもある。市場経済による処理はそのひとつである。家族、仲間、企業などの内部における相互扶助もある。そして政府も一定の枠組みを提供している。社会政策とは、生活上の諸問題を処理するための社会的な働きかけであり、仕組みである。 この社会政策Aでは、社会政策(Sozialpolitik)という政策概念について、歴史と現状の両面から、講義する。			
授業の目的 社会政策とは、「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会政策の史的展開を踏まえて今日的課題を探求することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 生活保護の仕組みを説明できる。 2. 現代の貧困について自分のこととして理解できる。			
成績評価の方法と基準 練習問題(宿題)、期末試験等に基づき総合して評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。 ガイダンス……………(1) I 社会政策とは (1) 社会というもの……………(2) (2) 政策という働きかけ……………(3～4) II 社会政策の諸領域 (1) 生きる 1. 救貧法……………(5～6) 2. 公的扶助……………(7～8) 3. 現代の貧困……………(9～10) (2) 働く・老いる 1. 工場法……………(11) 2. 最低賃金……………(12) 3. 社会保険……………(13～14) まとめ……………(15)			
授業の理解度を確認するために毎回、レポート課題もしくは練習問題等の宿題を課す。自学自習のきっかけとしても積極的に活用すること。 【自学自習のためのアドバイス】 授業を予習する。(1×10時間) 授業を復習する。(2×10時間) レポート課題を提出する。(2×15時間)			
教科書・参考書等 使用しない。 小川喜一編『社会政策の歴史』有斐閣、1977年。 玉井金五・大森真紀編『新版 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2004年。 成瀬龍夫『総説 現代社会政策』桜井書店、2006年。 久本憲夫『日本の社会政策[改訂版]』ナカニシヤ出版、2015年。 駒村康平ほか『社会政策 福祉と労働の経済学』有斐閣、2015年。			
オフィスアワー 火曜3時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 現実の身のまわりの生活の中に様々な形で社会政策が滲透していることを、そして同時に様々な問題を抱えていることを実感し、確かめながら、受講してください。			

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312141) 財政学A Public Finance A	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目	財政学B	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として租税論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の基幹税の仕組みを一通り教える。なお、この講義はミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的知識を前提にする。			
授業の目的 租税に関する主要な制度を理解すると共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 租税に関する主要な制度を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) (2) 租税に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 期末課題および期末試験。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション：租税とはなにか 第2回 日本の租税制度 第3回 所得税Ⅰ 第4回 所得税Ⅱ 第5回 所得税Ⅲ 第6回 所得税Ⅳ 第7回 所得税Ⅴ 第8回 法人税Ⅰ 第9回 法人税Ⅱ 第10回 消費税Ⅰ 第11回 消費税Ⅱ 第12回 消費税Ⅲ 第13回 相続税 第14回 贈与税 第15回 まとめ			
【授業および学習の方法】 資料を配付し、板書で補足する。 本年度は原則として対面方式で、授業を実施する。 但し、第1回の授業は遠隔方式で実施する。 また、状況によっては授業の実施方式を変更する場合がある。			
【準備学習および事後学習のためのアドバイス】 第2～14回 新聞や雑誌の記事を集め、授業内容の理解に役立てる。(1時間×13回) 参考書の該当箇所を読み、授業内容の理解に役立てる。(2時間×13回) 参考書を精読し、日本の租税制度の課題を考察する。(15時間) 日本の租税制度の課題に関するレポートを作成する。(6時間)			
教科書・参考書等 【参考書】 林宏昭『日本の税制と財政』中央経済社, 2019年, 2750円。			
オフィスアワー 月曜日3時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語厳禁。			

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312151) 金融論 I Monetary Economics I	科目区分	時間割 前期月1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論 II	
	履修推奨科目	金融論 II、金融政策 I・II	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 この授業では、教科書に沿って、大きく、貨幣と金融取引、取引費用に対処する金融の仕組み、金融機関について学ぶ。具体的には、貨幣と決済、金融とその機能、取引費用とリスク、情報の非対称性と返済のリスク、流動化・証券設計・情報生産や担保・保証や分散化などの金融の仕組みについて学ぶ。			
授業の目的 ・貨幣と決済について理解する。 ・金融とその機能について理解する。 ・取引費用に対処する金融の仕組みについて理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・貨幣と決済について説明できる。 ・金融とその機能について説明できる。 ・取引費用に対処する金融の仕組みについて説明できる。			
成績評価の方法と基準 中間試験100点・期末試験100点の合計200点満点で評価する（ただし中間試験を受けていても、期末試験を受験しなかった学生は成績評価の対象としない）。定期試験では、教科書からの出題は、重要語句や重要な論点を理論的に自分の言葉で説明できることを中心に要求する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業形態は基本的に対面とする。 基本的に教科書の要点を板書しながら説明する。 第1～3回 ガイダンス、貨幣と決済 第4～6回 金融とその機能 第7回 取引費用とリスク 第8回 中間試験 第9回 情報の非対称性と返済のリスク 第10回 金融の仕組み (1) 流動化 第11回 金融の仕組み (1) 証券設計、情報生産 第12回 金融の仕組み (2) 担保、保証 第13・14回 金融の仕組み (3) 分散化 第15回 まとめ、予備日 適宜、授業の終わりに10分間ほどの小テストを行う。その題材は世界で起こっている金融に関するニュースを取り扱った英文雑誌の短い記事を用いる。 【自学自習に関するアドバイス】 第1回～第15回 予習・復習として教科書の相当する部分を熟読する。(50時間) 第1回～第15回 小テストの際に配布した英文雑誌の記事と教科書の関連性を考え、さらに詳しい情報を自分でも調べてみる。(10時間)			
教科書・参考書等 (教科書) 内田浩史 (2016) 『金融』有斐閣、3400円(税別)。金融論 I ではこの本の第1章～第7章までを取り扱う予定である。また金融論 II (後期開講) でも同じ教科書を用い、残りの章を取り扱う予定である。 (小テストで用いる英文雑誌) 『The Economist』			
オフィスアワー 最初の授業で周知する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 金融論 I と金融論 II はセットで受けてほしい。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 322199) 経営戦略論 Management Strategy	科目区分	時間割 前期木1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 塩谷 剛	関連授業科目	イノベーション論、経営組織論、応用マイクロ経済学	
	履修推奨科目	イノベーション論、経営組織論、応用マイクロ経済学	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本講義では、経営戦略論を初めて学ぶ学生を対象として、 ①戦略立案に必要な思考方法を紹介する。 ②そして、これらの思考方法を用いた問題演習を行う。			
授業の目的 本講義の目的は、戦略立案に必要な思考方法を使いこなせるようになることである。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①企業の将来のあるべき姿を設定できる。 ②企業を取り巻く現状分析ができる。 ③現状からあるべき姿にたどり着くためのシナリオを描ける。			
成績評価の方法と基準 授業中の演習30点(2点×15回)+期末試験70点 演習の解答は出席のカウントにも使用するため、 授業終了後に提出すること。 翌週以降の提出も認めるが、その場合は1点とし、出席のカウントはしない。病気・忌引き等で欠席した場合、それらが証明できる書類が確認できればその限りではない。 なお、演習の解答内容を発表した学生には1回につき3点加点する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス この科目は全回対面授業を行う。 第1回：戦略の基本(教科書第2章) 第2回：利益：プロフィット(教科書第3章) 第3回：構造：ストラクチャー(教科書第4章) 第4回：位置：ポジショニング(教科書第5章) 第5回：資源：リソース(教科書第6章) 第6回：相手：ゲーム(教科書第7章) 第7回：構想：デザイン(教科書第8章・9章第1節) 第8回：洞察：フォーサイト(教科書第9章第2節～) 第9回：逆転：リバーズ(教科書第10章) 第10回：類推：アナロジー(教科書第11章) 第11回：試作：プロトタイプ(教科書第12章) 第12回：検証：バリデーション、人脈：ネットワーク(教科書第13章・14章) 第13回：全社：コーポレート(教科書第15章) 第14回：相乗：シナジー(教科書第16章) 第15回：範囲：バウンダリー(教科書第17章) <予習> 教科書の該当箇所を読み、Let's think/Exerciseの解答の方針を立てておく。分析対象はこちらから指定することがある。 <講義中> ①講師によるレクチャー ②問題演習： Let's think/Exerciseの一部に解答してもらおう。なお、Let's thinkは解答例があるため、内容を一部変更する。希望者による発表を実施する。 <復習> 教科書の該当箇所をもう一度読むこと。 講義内容を振り返り、Let's think/Exerciseの解答をブラッシュアップしておくこと。			

教科書・参考書等

教科書 井上達彦・中川功一・川瀬真紀(2019)『経営戦略』中央経済社

本講義で紹介する戦略的思考法の基盤となる経営理論について知りたい場合は下記の書籍を参照すること。

参考書 入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

第1回目講義開始前までに教科書第1章を読んでおいて下さい。10分もあれば読めます。

本講義で学んだ戦略的思考法を身近な企業に当てはめてみることを心がけて下さい。

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321040) 原価会計論 Advanced Bookkeeping	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	簿記入門および会計学・経営学関連の授業	
	履修推奨科目	簿記入門	
学習時間	講義90分×15回+自学自習 (準備学習 10時間 + 事後学習 50時間)		
授業の概要 車や電気製品の原価はどのように決められるのだろうか？という疑問を持ったことはありませんか？現代では、製造業だけでなく、サービス業においても、原価をマネジメントすることがたいへん重要となっています。 本講義では、原価の計算の仕方、つまり原価計算の基本的な方法を、複式簿記を用いて説明していきます。なぜなら、通常、原価計算は、複式簿記の原理に基づく工業簿記の中で用いられており、この有機的な関連を学習することは、企業を会計的な側面から観察する時に非常に役立つからです。具体的には、工業簿記・原価計算のしくみの基礎とその記帳処理を学習していきます。			
授業の目的 「原価（コスト）」の理解は、日常生活だけでなく経営学やマーケティング、会計学を学んでいく上でも重要となります。なぜなら、全ての活動には「原価（コスト）」が必ず関わってくるからです。したがって、この授業の目的は、「工業簿記と原価計算の基本原則を理解し、実践できる」となります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる。 (2) 製造企業の中で行われる工業簿記のしくみを理解し実践できる。 (3) 基本的な原価計算の理論を理解し計算ができる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス [授業の方法] 口述筆記、板書、プリント配布、理解度クイズ ※全回対面授業です。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 ※提出物はレポートBOXへ毎週提出予定です。			
[授業計画] (第1週) ガイダンス (第2～4週) 複式簿記の基礎 (第5～6週) 企業活動と工業簿記 (第7～11週) 原価の構成要素と記帳処理 (第12～13週) 総合原価計算と記帳処理 (第14・15週) 個別原価計算と記帳処理			
[自習学習の] <原則>毎週、理解度クイズの提出があるので、それを解くことなどを通して、しっかり復習を進めて下さい。(15時間) ※大学に来ることができない状況の際には、提出方法を変更します。 (第1週) この授業の位置づけを理解して下さい。(3時間) (第2～4週) 複式簿記の基礎の復習です。専門用語、表への記入の仕方、仕訳、転記、振り替え、決算手続きなど、複式簿記の総復習です。(9時間) (第5～6週) 工業簿記・原価計算の目的や流れを復習して下さい。(6時間) (第7～11週) 材料費、労務費および経費の詳しい処理を復習して下さい。(15時間) (第12～13週) 総合原価計算の原理と計算を復習して下さい。(6時間) (第14・15週) 個別原価計算の原理と記帳処理を復習して下さい。(6時間)			
教科書・参考書等 [教科書] 宮脇秀貴「工業簿記の基礎(改訂版)」セキ株式会社, 2021年 [参考書] 溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社、溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社、岡本 清「原価計算」国元書房			
オフィスアワー 毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず予習・復習を行うこと。特に、復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、簿記は積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこれなくなりそうです。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322131) 現代企業論 Contemporary Business	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習13時間+事後学習39時間+中間レポート8時間+期末復習10時間)			
授業の概要 本講義では、企業はいかなる形態をもつのか、どのように経営活動を行っているのか、現代企業の社会における責任とはなにか、などの問題について学習する。			
授業の目的 ①「企業」という組織形態に対する認識を高めつつ、企業統治 (コーポレート・ガバナンス)、企業と社会との関係の知識を得る。 ②日頃企業に関するさまざまな話題に関心を持ち、講義内容とリンクさせて思考する習慣をつけること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①現代企業に関わる基礎的知識と理論が習得できる。 ②新聞やニュースなど、日常的に接する現代企業の話題を講義内容とリンクさせて思考し、分析することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%、レポート30%で評価を行う。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
※対面により実施することを基本とする。			
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス：現代企業論講義で何を学ぶか？ 企業の諸形態 株式会社①株式と資本金 株式会社②所有と経営の分離、所有と支配の分離 継続的に財・サービスを提供する機関としての企業①長寿企業 継続的に財・サービスを提供する機関としての企業②企業の製品戦略 企業と社会①企業の経済的な役割 企業と社会②企業の社会的責任 日本のトップマネジメント組織と企業統治①日本的企業統治 日本のトップマネジメント組織と企業統治②日本的企業統治の形成要因 欧米諸国のトップマネジメント組織と企業統治 日本の企業統治の変容①ドキュメンタリー鑑賞 日本の企業統治の変容②講義 企業の成長とイノベーション まとめ <p>【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、授業中に課題を課し提出してもらいます (任意提出。詳細はガイダンスにて)。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <ol style="list-style-type: none"> 第2回目～第14回目： <ol style="list-style-type: none"> 準備学習について (1時間×13回) 事前に配布されたレジュメや教科書に基づいて、事実、基本概念などを自ら調べて把握しておく。 事後学習について (3時間×13回) 授業内容をしっかり理解したうえ、良質な情報源も活用し、幅広くかつ深く探求することに努める。 中間レポートに関わる学習と提出について (8時間×1回) <ol style="list-style-type: none"> 講義時に紹介した日本経済新聞記事をヒントとし、自らキーワードを選定して調査研究を行う。 学習・研究した成果をレポートにまとめて提出する。 期末試験に関わる復習について (10時間×1回) 期末試験に備えて、授業内容を全面的に振り返り総復習を行う。 			
教科書・参考書等 教科書：指定なし。レジュメを配布する。			
参考書：①佐久間信夫編著『よくわかる企業論』第2版、ミネルヴァ書房、2016年、2700円 ②加護野忠雄等編著『取引制度から読みとく現代企業』有斐閣アルマ、2018年、2000円 ③加護野忠雄等編著『コーポレート・ガバナンスの経営学』有斐閣、2010年、2400円			

オフィスアワー 火曜日の三時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業に関する教員からのお知らせはMoodleに掲載しています。定期的を確認してください。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 322245) リスクと保険 Introduction to Risk and Insurance	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 L	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	保険システム論等	
	履修推奨科目	保険システム論	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備時間30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 我々は、様々なリスクに取り囲まれており、それらのリスクに対処する必要があることはいうまでもない。本講義では、保険を中心にリスク処理手段についてごく基礎的な内容を概説する。			
授業の目的 リスクおよび保険制度のごく初歩的な知識を身につけることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
リスクの処理手段に関心をもつことができる。 保険制度の初歩的な知識を修得する。			
成績評価の方法と基準 期末試験により評価する (100%)。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
口述筆記, 板書等 (1) ～(4) リスク及びその類概念 (5) ～(7) 保険の仕組み (8) ～(9) リスク・マネジメントの枠組み (10) ～(12) リスク・コントロール (13) ～(14) リスク・ファイナンス (15) まとめ 自学自習について 授業中の指示に従い、提示された書籍、新聞記事などを確認すること。 必ず復習しておくこと。 なお、授業計画を変更することがあるので注意されたい。 この科目は基本的に対面講義で行う予定である。 もっとも受講生が多く、三密が避けられない等、状況によっては授業の一部または全てを遠隔講義で行う可能性がある。			
教科書・参考書等 教科書：使用しない。 参考書：適宜指示する。			
オフィスアワー 時間：水曜日の2校時。変更する場合には講義中に指示する。 場所：安井研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ シラバスで授業計画を示しているが、教育効果を高めるために、実際の進捗状況をみながら授業計画を変更することがある。 大学生にあえて注意することではないが、講義中には、私語ならびに本講義と関係のない作業をしてはならない。講義中の途中退室は認めない (体調不良等については初回の講義で説明する)。 許可された場合を除き、講義中の写真撮影・録音を禁じる。携帯・スマートホンの電源を切っておくこと (特別な理由から必要な場合には、事前に届けること)。これら禁止事項の違反が度重なる場合には単位を認定しない。ルールを守る自信がない学生は受講しないこと。 なお、出席をとる予定である。15分以上遅刻した場合には欠席扱いとなる。 やむをえず欠席する場合には、各自で欠席回数を記録しておくこと。欠席回数 (出席回数) についての質問には答えられない。 遠隔講義の場合であっても、上記の注意事項を守ること。当然、席を指定しないが、ノートテイクできる状態で受講すること。			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322019) 経営組織論 Organization Theory	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営管理論、経営戦略論、人的資源管理論A/B	
	履修推奨科目	経営管理論、経営戦略論、人的資源管理論A/B	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 経営組織のマネジメントにかかわる諸理論を紹介した上で、今日の企業経営におけるマネジメント上の課題と解決法について事例を交えた考察を行う。			
授業の目的 この授業では、組織現象に対するさまざまな研究アプローチや基礎理論にかかわる知識を習得するとともに、それらの知識を活かし、企業活動に関わる組織的な課題を整理し、自己の問題意識と関連づけて探求できるようになることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 組織のマネジメントに関わる基礎的な理論を理解し、分かりやすく説明することができる (学士課程のDP「b:知識・理解」に対応)。 2. 企業活動に関わる組織的な課題について理論と関連付けて説明を行うことができる (学士課程のDP「b:知識・理解」に対応)。 3. 企業活動に関わる組織的な課題について、自身の問題意識と関連づけて考察し、解決策を提示することができる (学士課程のDP「c:問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 ミニレポート (30%)、期末試験 (70%) により総合的に評価する。ミニレポートは複数回実施する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 1. イントロダクション (組織論とはどのような学問か) 2. モチベーション① (テキスト1章) 3. モチベーション② (テキスト2章・3章) 4. 採用と組織社会化 (テキスト4章・5章) 5. キャリア 6. リーダーシップ① (テキスト7章) 7. リーダーシップ② (テキスト8章) 8. グループダイナミクス (テキスト9章) 9. コンフリクトと交渉 (テキスト10章) 10. 組織文化 (テキスト11章・12章) 11. 組織のデザイン 12. 組織変革 13. 事例検討1 14. 事例検討2 15. まとめ (テキスト13章) ＊進捗状況に合わせ、授業計画を修正する場合がある。			
【授業および学習の方法】 経営組織のマネジメントにかかわる諸理論について講義する。理論と現実の接合がはかれるよう、適宜、事例の紹介やエクササイズ、映像教材等を使用する。基本的にテキストに沿って進めるので、事前に予習して内容を把握しておくことが望ましい。授業後には再度内容を振り返り、理解状況を各自でチェックすること。準備学習に30時間、事後学習 (ミニレポートの作成を含む) に30時間程度をあてることが望ましい。			
＊この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 教科書: 鈴木竜太・服部泰宏 (2019) 『組織行動: 組織の中の人間行動を探る』有斐閣 税込み2200円 (生協にて販売) 参考書については適宜紹介する。			

オフィスアワー 開講時にアナウンスする。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、私語厳禁。

積極的な質問を歓迎する。

授業の一部にグループワークを伴う（なんらかの配慮が必要となる場合は、事前に申し出ること）。

授業関連の補足説明等はmoodleに掲載するので必ず確認すること。

17E以前の学生には経営組織論Aとの読み替え科目となります（経営組織論Aの単位を修得済みの学生は本講義は受講できません）。

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322190) マーケティング論A Marketing A	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	マーケティング論B、流通システム論A, B	
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 X 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本講義は、企業のマーケティング活動に焦点を当て、その論理と実際を理解するものである。企業がマーケティング発想を持つとはどういうことなのか、マーケティング活動（たとえば、市場創造、製品開発、ブランド構築、顧客管理など）はどのように行われるのかといった企業のマーケティング・マネジメントを学ぶ。			
授業の目的 マーケティング・マネジメントを学ぶことによって、マーケティングが世の中でどのような役目をはたしているのか、われわれの生活とどのようなかかわりを持つのか、また現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役にたつのかなどを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングの考え方と最低限の基本理論が理解できる。 2. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかかわりをもつかが理解できる。 3. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つかが理解できる。			
成績評価の方法と基準 小テストとグループワーク60%、期末試験40%により評価する。 詳細については第1回目の授業で説明する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回：ガイダンス/マーケティング発想の経営 第2回：マーケティング論のなりたち 第3回：マーケティング論の基本概念 第4回：戦略的マーケティング 第5回：製品のマネジメント 第6回：価格のマネジメント 第7回：広告のマネジメント 第8回：チャネルのマネジメント 第9回：サプライチェーンのマネジメント 第10回：営業のマネジメント 第11回：ビジネスモデルのマネジメント 第12回：顧客理解のマネジメント 第13回：ブランド構築のマネジメント 第14回：ブランド組織のマネジメント 第15回：企業の社会責任/まとめ 注) 基本対面で実施します。			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜小テストやグループワークを取り入れます。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1回 自分のよく知っている事業の製品、たとえば、コカ・コーラ、キットカットなどについて、その製品が果たす機能とその製品を購入する目的を、授業で紹介できるように準備する。(2時間) 第2回 マーケティング論は、組織をうまく運営していくという意味で経営学とどのような違いがあるのか考察する。(2時間) 第3-4回 なにかひとつの製品市場を想定し、そこがどのような市場セグメントに分けられるのかについて調べ、整理する。(4時間) 第5回 自分の好きな新製品を1つ選び、その製品のコンセプトを、授業で紹介できるように準備する。(2時間) 第6回 料金体系を変化させることで、消費者による製品・サービスの購買や利用の方法がどのように変化するかについて調べ、整理する。(2時間) 第7回 現在それほど普及していない製品で、製品の理解度を高めれば普及しそうな製品を考えてみよう。(2時間)			

- 第8回 あるメーカーがチャネル洗濯において、卸売業者を排除すれば、どのような影響がでるかについて、「取引数節約の原理」の観点から、整理する。(2時間)
- 第9回 SCMを取り入れていないメーカーは、どのような問題に直面するかについて、整理する。
- 第10回 「個人営業」と「組織的営業」の違いについて、整理する。(2時間)
- 第11回 「1回1回の交換を中心とした取引」と「継続的関係の構築を中心とした取引」の具体例を、授業で紹介できるよう準備する。(2時間)
- 第12回 顧客理解において、定性調査と定量調査それぞれの有効性について整理する。(2時間)
- 第13-14回 ブランド機能や効果について整理する。(4時間)
- 第15回 マーケティングにとって、社会責任活動はなぜ必要な活動なのか考察する。(2時間)

教科書・参考書等

教科書

石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編）『1からのマーケティング第4版』、碩学舎、2019年

参考書

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文（編）『1からのマーケティング・デザイン』、碩学舎、

石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』、ちくま新書、2010年。

オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

成績評価などの履修上注意事項の説明を行うため、第1回目の授業に必ず出席すること。

ナンバリングコード B2BSN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322260) 流通システム論A Distribution System Theory A 流通システム論A	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論B、マーケティング論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 現代の経済社会において快適な日常生活を送るためには流通は欠かせない。ただ、この快適な生活を支えている流通システムは自然にできあがったものではなく、革新的な商業者が絶え間ない試行錯誤によって生み出してきたものである。 そこで本講義では、流通システムの役割・意義・特徴等の理解から始まり、個別業態の具体的な成立過程や内容・特徴・課題点などを社会的・歴史的・理論的背景と連動させながら理解する。特に、この講義では流通システムの革新性の発展過程に注目する。			
授業の目的 いつ・どこで・誰によって・どのような背景のもと、日本の流通システムが出来上がってきたのか、それを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の到達目標は以下の4つである。 1. 流通に関する基礎的な知識・理論を習得できる 2. 流通システムが発展してきた革新の過程を社会的・歴史的・理論的背景とともに理解できる 3. 流通システムに関する抽象的概念と具体的事例を結びつける論理的思考力を身につけられる 4. 日常の出来事について、流通・流通システムの視点から考えることができる			
成績評価の方法と基準 評価方法は講義への理解度・受講姿勢(37%)、中課題(13%)、最終試験(50%)＋αで判断する予定である(変更可能性あり、詳しくは初回時に説明)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 (1)はじめに：授業オリエンテーションと、流通に対する関心を引き出します (2)流通システム論の基礎：①流通とは？：流通の役割や特徴など、流通の基礎的な知識を学びます (3)流通システム論の基礎：②売買集中の原理他：事業者の存在意義に関する基礎的理論等を学びます (4)流通システム論の基礎：③日本の流通構造：日本における流通構造の変化・特徴について学びます (5)小売業態の革新：①商店街：流通システムを支えてきた商店街の革新性について学びます (6)小売業態の革新：②呉服系百貨店：流通近代化の先端事例である呉服系百貨店の革新性について学びます (7)小売業態の革新：③電鉄系百貨店：新しい形としての百貨店である電鉄系百貨店の革新性について学びます (8)小売業態の革新：④流通系列化：流通系列化とは何か、なぜ流通系列化という現象が発生したかについて学びます (9)小売業態の革新：⑤総合スーパー：1960年代以降の流通近代化の象徴である総合スーパーの革新性について学びます (10)小売業態の革新：⑥食品スーパー：日常生活に密着した食品スーパーの革新性について学びます (11)小売業態の革新：⑦コンビニエンスストア：現代生活に欠かせなくなったコンビニの革新性について学びます (12)ビデオ学習：実際の現場で起こっている課題から小売業を学びます (13)流通システム論の応用：①延期と投機の理論他：流通システムの効率性を考える上で欠かせない理論等について学びます (14)流通システム論の応用：②商業集積と外部性：商業集積が成立する根拠や商業集積の管理問題等について学びます (15)おわりに：これまでの授業の復習と試験について解説します この科目は基本的に対面授業を行う。なお状況によっては受講生をグループに分け授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。 また、講義中にmoodle上にて小課題等の提出を課するため、対面授業者においてもmoodleを使用できるようなPC・スマホ等の機器を必ず準備すること。準備できない場合は事前(初回含む)に渡邊まで相談すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 事前学習：身のまわりの流通活動や市場の動きに日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること(週に2時間程度) 事後学習：次の講義までに、配布プリント・教科書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること(週に2時間程度)			

教科書・参考書等

教科書：講義中配布のプリントで対応できるが、下記2冊があるとより理解が深まる。なお、この教科書2冊は『流通システム論B』でも同じものを利用するため、どちらも受講予定の場合は購入を勧める。

- ①石原武政・竹村正明・細井謙一編著(2018)『1からの流通論 第2版』碩学舎(2400円+税)
- ②崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『1からの流通システム』碩学舎(2400円+税)

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

私語をはじめとする授業の妨げとなる行為、また授業参加への意欲が著しく低下している学生については、教育的指導を行う。

なお、この講義は流通システム論Bと関連しており、流通システムをより理解するためにも引き続き流通システム論Bを履修することが望ましい。

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 320303) 会計学総論 Basic Accounting 会計について知る	科目区分	時間割 前期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 L	単位数 2	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学関連科目	
	履修推奨科目	簿記入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本授業では、会計学の基礎的な知識を習得すること、に重点を置きます。 まず、会計とは何か、なぜ会計情報が必要なのかの概要、企業の開示する会計情報の機能、そこから企業活動の大きな流れを読み取ります。 そのうえで、その根底にある理論的な概念と考え方について学習します。 このように、本授業では、会計学の詳細な「各論」の基礎となる「総論」について学習します。			
授業の目的 講義を通じて、会計全般の基礎的な知識を身に着けることを目的とします。 これからの、より専門的な会計授業、つまり「各論」の学習に対応できるように、基礎的な会計への理解と体力づくりのために、この授業は欠かせません。 また、企業の会計情報から企業の経済活動の実態を読み取る能力も備えましょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計の基本的な仕組みを学習することで、企業の財務情報の全体像が理解できます。 2. 企業の経済活動をまとめた財務情報が、会計理論と基準、根拠となる考え方によって異なることを知ることができます。 3. そのうえで、今の会計情報がどのような考え方に基づいてできているのかを理解することができます。			
成績評価の方法と基準 小テスト (複数回実施) または中間テスト (60%/50%/40%) と期末試験 (40%/50%/60%) による総合的評価。 対面授業かどうかによっても試験の実施内容および評価が異なります。 なお、受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス まず、会計、主に財務会計の基礎概念を丁寧に説明します。 そのうえで、会計情報をつくる基礎として会計理論と基準、処理方法について理解を深めます。 なお、授業と中間評価は、授業の進捗状況によって、時期や内容が変更することがあります。			
第1回 共通言語としての会計 - 会計がなぜ必要なのか、どんな機能を持っているのか 第2回 会計の情報利用者と財務諸表の基礎 - 情報を利用するという意味は？ 第3回-第4回 会計理論と会計基準 - 会計数値の根拠は？ 第5回-第7回 利益測定と資産評価の基礎 - 企業にとって利益の意味は？会計数値はどう作られていくのか？ 第8回-第10回 資産と損益項目 - 会計情報の重要項目とその意味 第11回-第12回 負債項目 - 会計情報の重要項目とその意味 第13回-第14回 純資産項目 - 会計情報の重要項目とその意味 第15回 まとめ 期末試験			
注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。			
教科書・参考書等 テキスト 桜井久勝『財務会計講義 (最新版)』中央経済社。 購入は必須ではありません。 講義では、テキストの必要な部分をかいつまんで説明します。なお、より専門的な会計の勉強を予定している人は購入 (最新版) をお勧めします。この科目受講だけの場合でも、流れをとるためにはあった方がいいでしょう。古本を利用することもいいでしょう。その際は、5, 6年程度のものにしてください。 必要な資料は配付します。			
オフィスアワー 木曜2限 研究室3号館3階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。 簿記の知識があると、より授業内容が分かりやすくなります。事前に必要な基礎内容を学習してからの受講が望ましいです。講義では、毎回まとめ作業をします。まとめ専用のノートを別途用意してください (ファイリング用ではなく、一般ノート)。 なお、第1回講義には必ず出席してください。注意事項や講義計画、試験などについて説明を行います。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322165) 管理会計論 Management Accounting	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計・経営学関連科目	
	履修推奨科目	簿記・会計関連科目	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間)			
授業の概要 マネジメントのための会計である管理会計を初めて学ぶ学生のための授業です。本授業では、管理会計の基本的な概念、技法、考え方などを学習し、さらに経営管理にどのように実践されているかについて考えていきます。			
授業の目的 経営管理に役立つ管理会計の基礎知識を身につけること (DPの「知識・理解」に対応) を目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 財務諸表をもとに企業活動を評価できる。 2. 利益管理と原価管理に役立つ原価概念、諸技法を説明できる。 3. 意思決定と業績評価のための管理会計技法を習得できる。 4. 経営管理プロセスで管理会計情報がどのように役立つのかについて説明できる。			
成績評価の方法と基準 レポート (0~20%) と期末テスト (80~100%) の合計点数をもって成績評価を行います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 インTRODクション【授業の概要と進め方】 第2回 管理会計のフレームワーク 第3回 原価の概念 第4回 標準原価管理① 第5回 標準原価管理② 第6回 財務分析① 第7回 財務分析② 第8回 利益計画① 第9回 利益計画② 第10回 事業部制会計 第11回 設備投資の経済計算① 第12回 設備投資の経済計算② 第13回 ABC/ABM 第14回 原価企画 第15回 品質原価計算 第16回 期末テスト			
【授業及び学習の方法】 授業はプリント、Power Point資料などを活用しながら講義中心に進めます。 また、講義内容の理解を助けるため練習問題を取り入れます。 この科目は基本的に対面授業を行いますが、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 ・ テキストを事前に読んでおくこと (毎回2時間程度の予習が必要です) ・ 授業中に取り上げた例題や練習問題を復習すること (毎回2時間程度の復習が必要です)			
教科書・参考書等 【教科書】 高栢 真一編著『管理会計入門ゼミナール』創成社、2012年 (生協の書籍部にて購入) 【参考書】 講義において適宜紹介します。			
オフィスアワー 木曜日1時限目、朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業計画並びに授業の方法は、授業の開始時点での予定であり、開始後の状況により変更する場合があります。			

ナンバリングコード B2GE0-bdeE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331020) 観光学概論 Introduction to Tourism	科目区分	時間割 後期火5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2GE0	DP・提供部局 bdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目 まちづくり論、地域活性化論、エコツーリズム論、観光地理学、観光産業論、観光政策論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
<p>授業の概要</p> <p>誰もが経験したことのある旅行(観光)ですが、では改めて「観光とは何か?」と問われると答えに困るのではないのでしょうか。</p> <p>「観光は地域の総合産業」「観光は地域のまちづくりの総仕上げ」などとも言われるように、観光は単に旅行すること自体に留まらず、地域の色々なものごとに関わりのある人間の行動であり、経済活動です。</p> <p>この授業では、観光の持つ多様な側面について解説するとともに、現在、全国各地で行われている観光振興のための取り組みについても、できるだけ多くの事例を紹介します。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>これから観光について学んでいくための足場固めをするために、幅広い観光の分野についての基本的な理解【b】すると同時に、各地の具体的な事例から地域における観光の現状について理解【e】することを目指します。</p>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだ概念や用語を使って観光について説明できる。 2. 様々なタイプの観光の実例について、具体的に説明できる。 3. 観光の持つ魅力や課題について指摘できる。 			
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>①授業各回の小レポート(45%)と②期末レポート(55%)の総合評価とします。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション① 欲望の旅、学びの旅 (2) イントロダクション② 「どっさり」と「ゆったり」 (3) 用語から見る観光 (4) 歴史から見る観光 (5) データから見る観光 (6) 観光資源と観光ルート (7) 観光産業の特徴 (8) 観光産業① 宿泊業 (9) 観光産業② 旅行業 (10) 観光産業③ 交通運輸業 (11) ニューツーリズム① (12) ニューツーリズム② (13) 観光まちづくり① (14) 観光まちづくり② (15) 観光政策と観光マーケティング <p>授業の中で観光に関する様々な事例を多数紹介します。授業内で紹介できるのは、それぞれの取り組みのごく一部でしかないので、興味を持った事例については、インターネットや新聞・雑誌、書籍などで、関連する他の事例などについて調べてみてください。</p> <p>※この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。いずれの場合でも、講義や課題は同じ内容のもので変更ありません。</p>			
<p>教科書・参考書等</p> <p>教科書：特になし。適宜授業内で資料等を配布します。</p> <p>参考書： 羽田耕治著『地域振興と観光ビジネス』JTB能力開発、2008年 竹内正人・竹内利江・山田浩之編著『入門 観光学』ミネルヴァ書房、2018年</p>			
<p>オフィスアワー 授業終了後に対応します。 山崎研究室(南3号館3階)</p>			
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画は進捗状況により、変更になる場合があります。変更については授業内で適宜連絡します。 ・授業に参加する意思がない態度や、授業の進行の妨げになる行動をとる学生については退室を指示し、態度が改められない場合は単位の取得を認めない。 			

ナンバリングコード B2SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332071) グローバル社会概論 Globalization and Society グローバリゼーションと社会 Globalization and Society	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 世界の文化と社会についてこれから勉強していくうえで、予備知識として必ず知っておくべき用語や概念について解説する。それらの用語・概念の歴史的・社会的背景についてもあわせて考察する。 なおこの授業は対面で行う。			
授業の目的 グローバル社会・経済を学ぶための基礎的・予備的な知識を得る。私たちが生きている世界の現在の状況と、それに至るまでの歴史的な背景を、具体的な事例から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
世界の国・地域について、具体的にイメージすることができる。世界の言語、文化、社会の幅広い領域について深い関心を持つ。国際的なことごとらについて問題意識を持ち、自分に関わる問題として考えることができる。講義で扱った基本的な用語や概念について説明できるようになる。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業への参加度をミニレポートで評価)20%、中間試験および期末試験80%により、総合的に評価する。毎回出席をとるので欠席しないこと。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。中間試験・期末試験いずれも必ず受けること。 ※出席してミニレポート用紙に名前を書くだけでは「平常点」は与えられない。必ず意見・感想・質問などを書いて提出すること。 ※中間試験と期末試験どちらか一方でも受けないと単位は与えられない。 ※しかるべき理由(病気・怪我、忌引、大会参加等)で欠席する場合は、証明書等を添えて欠席届を提出すること。就職活動で欠席する場合も、会社説明会等に出席していたことを証明するものを添えて欠席届を提出すること。 ※なお、適正な収容人数を超えた場合、他学部生の受講制限を行う。H29年度以前の入学者で、地域社会システム学科以外の学生(他学科の2年生以上および他学部生)については、受講人数制限を掛ける場合もある。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【学習の方法】 授業は必ずノートを取りながら聴く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、解説された用語・概念をよく理解する。			
【授業計画】 (1) 世界の国と地域 (2) 世界の国と言語 (3) 言語と文化 (4) 民族概念とその歴史 (5) 世界の宗教 (6) 宗教・社会・経済 (7) 政治体制とその歴史 (8) 中間試験(試験範囲は第1回～第7回) (9) 国家と国民 (10) 経済のしくみ (11) 帝国主義と植民地主義 (12) 越境・移動・グローバリゼーション (13) 南北問題と東西冷戦 (14) ジェンダーとセクシュアリティ (15) メディアと社会 期末試験(試験範囲は第9回～第15回)			
※順番・内容は若干変更される場合がある。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・準備学習: 2時間×15回=30時間 ・事後学習: 2時間×15回=30時間 ※授業時に紹介される参考文献を読むことを考慮すると、相当の時間が必要になります。			

教科書・参考書等
各教員が随時指定する。

オフィスアワー 個別の講義内容については各教員に確認すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この講義で扱う用語・概念はいずれもごく基本的なものです。そのつどしっかり習得すること。遅刻、途中退出厳禁。

ナンバリングコード B3SCL-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332230) 日本社会経済史 Economic History of Japanese Society	科目区分	時間割 後期末1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	経済史入門、経営史	
	履修推奨科目	経済史入門、経営史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 近現代日本社会経済史の概説を講義する。 その際、 ①経済成長のマクロ的考察にとどまらず、人々の暮らしと経済との相互関係及びその推移を重視する。 ②日本と東アジアとの経済的関係の歴史的推移を重視する。 以上の二つの点に留意して講義を進めていく。			
授業の目的 近現代日本の社会経済史の基礎知識を習得する。習得する上で、経済学・歴史学の方法論をもって、幕末開港から現在に至る時代を考察して、近現代日本の社会と経済の大きな流れに留意していく。 特に、 ①様々な経済現象が人々の暮らしを大きく規定してきたこと。 ②近現代日本の社会経済が東アジアの諸地域と密接に関係してきたことについて理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 近現代日本における地域的多様性を説明できる。 2) 一国史的枠組にとどまらず、「アジアの中の日本」・「世界の中の日本」といった、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で近現代日本の社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末レポート(80点)と、講義レポート(20点×1回)で成績を判断する。授業アンケートを課す可能性があるが、その際、優れた意見の提出者には、加点する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する。 毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 (1) イントロダクション：日本社会経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2)～(3) 近世から近代へ：幕末開港と明治維新—経済から見た幕末・維新时期— (4)～(5) 「生きづらい」明治社会—再考— 通俗道徳の影響と立身出世という価値観 (6)～(9) 「産業革命」と伝統的要素—生産技術と市場制度、近代産業と在来産業— (10)～(11) 日清・日露戦争と対外経済「進出」・植民地経営—その社会的影響— (12)～(14) 両大戦間期日本の社会と経済：大戦好況・バブルの発生・バブル崩壊後の長期不況が与えた様々な影響 (15) 講義の小括 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について参考書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのか、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく。			
※この科目は全回遠隔授業を行います。			
教科書・参考書等 【参考書】 宮本又郎編『改訂新版 日本経済史』(放送大学教育振興会、2012年、2700円+TAX)。 【参考書】 松沢裕作『生きづらい明治社会—不安と競争の時代』(岩波ジュニア新書、2018年、800円+TAX) 各回の講義において参考文献を提示する また、講義において提示する図・写真等については、黒田日出男監修・帝国書院編集部編『図説 日本史通覧』(帝国書院、2021年、861円+税)を用いていくこととする。視覚的理解をより一層求めたいと考える受講者は、上記書籍、あるいは、高校生向けの日本史図録・図説等を手許に置いて予習・復習することを推奨する。			
オフィスアワー 各回の講義終了後に、ZOOMのミーティングルームにて、オフィスアワーを設ける。それ以外にも、メールで連絡をもらえれば、随時対応する。メールアドレスは、sheisrain@yahoo.co.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 本科目は参考書を指定するが、参考書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。			

ナンバリングコード 授業科目名 (時間割コード: 332423) (特) 社会と言語 Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 品川 大輔	関連授業科目	言語学概論, 言語学入門	
	履修推奨科目	言語学概論, 言語学入門, すべての外国語科目	
学習時間 講義90分×15回に加え, レポート執筆のための自学 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 我々が暮らす日本は, いわゆる標準日本語が国内のどの地域においても通用する, 言語的に均質性の高い国家であると, ひとまず言うことができる. 一方で世界の他地域に目を転ずれば, 一国内で複数の言語が話されているという場合が, むしろ一般的ですらあることが理解される. そのような多言語状況 (multilingualism) を背景としたさまざまな社会言語学的現象について論じつつ, 世界的状況を鑑みればむしろ例外的である日本の言語状況を相対化し, 世界の, そして日本の「社会のなかの言語 (ないしは「方言」)」に関する諸問題について論じる.			
授業の目的 本講義は, いわゆる社会言語学 (sociolinguistics) に関する概論であるが, 社会言語学が取り扱う研究課題はきわめて多岐にわたる. そこでこの講義では, 1) 社会学的領域 (言語とアイデンティティーの問題, 社会方言, 言語と国家の問題, 等), 2) 人類学的領域 (民族集団と言語に関する問題, 少数言語問題, 等), 3) 地理学的領域 (言語接触, 言語地理学, 等) の3領域における具体的な問題に対象を絞り, それぞれの分野における基本的な知見を得ることを目的とする. それによって受講生個々人が, 国内外の社会と言語にまつわるさまざまな問題を相対化して理解できるようになることが, 本講義の目標である. それが達せられれば, (こと日本に暮らしていると無縁に感じられるが実は身近に存在する) 社会言語学的な諸問題を内面化して理解し, それに対する自分なりの見識なり, 具体的な行動へのヒントなりを得ることができているはずである. 「グローバル化する社会」にマジメに向き合う必要があるのなら, 日本国内であれ, 国外であれ, この種の見識は極めて重要性の高いものである.			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会言語学の各領域に関する基本的な知見を得ることができる. 2. 世界の諸地域の言語状況を, 具体例に基づいて理解し, 日本の言語状況を相対化して把握することができる. 3. 我々が生きる社会と言語に関する問題を内面化し, 自らの見解を述べるることができる.			
成績評価の方法と基準 授業への参加度 (50%) と最終レポート (50%) による. 授業への参加度は, 授業後に提出するリアクション・ペーパーで評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は基本的に対面で行う. 予習は必要としないが, 講義で扱った内容について, 自らの置かれた状況や経験に照らし合わせ, 内面化 (問題化) することを求める. その問題意識と講義で得られた知識をもとに, 参考文献にあたってレポートを作成する.			
(1) 導入-1: 世界の言語と社会言語学的諸問題の概観 (2) 導入-2: 世界の多言語状況: 相対化のために (アフリカを中心に) (3) 導入-3: 世界の多言語状況: 相対化のために (ヨーロッパを中心に) (4) 導入-4: 社会言語学の基礎概念: 言語と国家, 言語威信, 言語使用域 (5) 社会学的領域: 社会階層と言語変種 (sociolect) (6) 社会学的領域: 多言語主義 (multilingualism) をめぐる世界の状況 (7) 社会学的領域: 日本における社会言語学的問題 (8) 人類学的領域: いわゆる少数言語に関する問題 (9) 人類学的領域: 言語的多様性の価値 (10) 人類学的領域: 「民族」と「言語」にまつわる具体事例 (少数言語) (11) 人類学的領域: 「民族」と「言語」にまつわる具体事例 (政治的側面) (12) 地理学的領域: さまざまな「英語」 (World Englishes) (13) 地理学的領域: 言語接触と言語変化: ピジンとクリオール (14) 地理学的領域: 方言学/ 言語地理学概観 (15) 補説とまとめ			
教科書・参考書等 とくに指定しないが, 重要文献は講義内で照会する. また講義資料 (ハンドアウト) は講師が準備する.			
オフィスアワー 事前問い合わせがあれば, 可能な限り対応する.			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・授業計画に示したとおり, 3領域から代表的なトピックを選択して講義を進めていくが, 進行の度合いや時事的な問題を授業に反映させる可能性もあり, 上記授業計画の一部を変更する可能性がある. ・全学共通科目「言語学入門」を受講していることが望ましい. ・アフリカ地域における問題を多く扱うため, 同地域に興味を有する学生の出席を歓迎する.			

ナンバリングコード B2GE0-bdeE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 333191) まちづくり論 Town Planning and Design 観光振興・景観・デザインの視点からまちづくりを考える	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2GE0	DP・提供部局 bdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	地域活性化プロジェクト、地域をデザインする 思考と実践	
	履修推奨科目	観光・地域振興コース関連科目	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 近年、「まちづくり」という言葉は急速に社会に広まり、一般的な概念として定着してきています。しかし、その概念がカバーする守備範囲は極めて広く、地域経済、環境、政治、福祉、医療、子育て、コミュニティなど、あらゆる分野が「まちづくり」の領域に接合されています。 「まちづくり」という概念はこうした総合性・継続性にこそ大きな特徴があり、ある特定の領域を対象とする既成の学問分野とは一線を画しています。 本講義では、「まちづくり」という概念が有する総合性、あるいは既成の学問知をつなげていく特性を十分に理解したうえで、なぜいま「まちづくり」が求められているのかについて、具体的な事例をもとにしながら講義を進めていきます。 また、本講義では「まちづくり」を一般的概念として総合的に説明するだけでなく、特に「観光」と「景観」という専門的視点から、それぞれに必要なとされる知識や考え方について、理解を深めていきます。			
授業の目的 ①地域の問題から「まちづくり」「観光」を理解する よりよい地域社会へと導く解決策(道筋)として、「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割を理解します。 ②「景観」の価値に対する感性を鍛える これまで茫漠と見ていた外的環境に対して、美や問題点を発見できる感覚を研ぎ澄ます訓練をします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割が説明できる。 ②「景観」の価値に対する感性を鍛え、景観の価値について他人と議論することができる。			
成績評価の方法と基準 レポートおよびテストで成績を評価します。 毎授業でやるリアクションシートで、しっかり書いていけば加点評価していきます。 中間テストを行い、あまりにも成績の悪い学生は単位取得の資格を失います。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 <序編> (1) 「まちづくり論」ガイダンス(概要と講義スケジュール) (2) 「日本の地域をめぐる諸問題」 (3) 「解決策としての観光まちづくり」 <基礎知識編> (4) 「観光を知る」その1 近代社会と観光の誕生 (5) 「観光を知る」その2 変化する観光とニューツーリズム (6) ワークショップ① (7) 「景観を知る」その1 工場景観と棚田の風景 (8) 「景観を知る」その2 良い景観と悪い景観めぐって (9) 「景観を知る」その3 景観の価値と捉え方 (10) ワークショップ② (11) 「まちづくりを知る」その1 まちづくり概念の台頭 (12) 「まちづくりを知る」その2 コミュニティデザイン (13) 「まちづくりを知る」その3 環境のつながりとジブリ論 <結編> (14) ワークショップ③ (15) 「まちづくり論」まとめ ※中間テストを予定しています。			

【授業及び学習の方法】

授業は講義形式とグループワーク形式によって進めていきます。
毎回、授業後に講義の感想や気付きについてリアクションペーパーを提出してもらいます。

この科目は基本的に対面授業で実施しますが、一部の授業回では遠隔授業とする可能性があります。
なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

4回～6回 観光の歴史に関する情報を調べる。(10時間)
7回～10回 景観に関する情報を調べ、文献を読む。(10時間)
11回～13回 授業で紹介する文献を読む。(10時間)

教科書・参考書等

西村幸夫編「まちづくり学」、中村良夫「風景からのまちづくり」、山崎亮「コミュニティデザイン」など。
テーマによって適宜紹介します。

オフィスアワー 随時、研究室（南3号館3階）にて受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講希望の学生は必ず「デジカメ」（スマホも可）を用意してください。写真を撮影する課題があります。
また、観光・地域振興コース希望者は2年時に履修することを推奨します。

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332451) 外国語演習 I (英語) Foreign Languages I 時事英語	科目区分	時間割 後期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	Communicative English I-IV, ビジネス英語	
	履修推奨科目	アメリカ文化社会論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (週3時間)			
授業の概要 アメリカの社会, 経済などの時事問題について, アメリカのニュース放送を視聴しながら学習する。聞き取りの訓練も行う。			
授業の目的 アメリカの社会, 経済などの時事問題に関するニュース放送を視聴し, 実用英語の読み聞きに習熟することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 英字新聞やニュース映像の内容を概ね理解できる程度の英語読解力, 聞き取り能力の習得している。 2) アメリカの社会・経済が抱えている問題を理解できる。 3) TOEICで50～100点のスコアアップを目的とする。			
成績評価の方法と基準 毎週の課題提出および中間・期末試験の成績を総合して評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は基本的に対面で行う。一週間前にテキスト (プリント) を配布するので, 授業までに音声ファイルを聞いてディクテーションおよび日本語訳を行う。自宅学習は毎回3時間程度を想定している。授業では, テキストの内容を確認し, 自ら修正したものを毎回提出する。 (1) ガイダンス (2)～(7) 聴解・読解演習 (8) 中間試験 (9)～(14) 聴解・読解演習 (15) 期末試験			
教科書・参考書等 【教科書】アメリカのニュース番組 (NBC Nightly News) のほか, インターネットニュースなどを教材とする。 【参考書】適宜, 指示する。			
オフィスアワー 火曜日 4時限目, 金曜日 4時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回授業において, 授業の進め方についての重要事項を説明し, 次回の課題 (宿題) を出すので, 必ず出席すること。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332453) 外国語演習 I (ドイツ語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ドイツ語の初級文法で1年次に学習した事項を復習し、学習しなかった事項も学びながら、ドイツ語の読解力を養成する。モーツァルトの『魔笛』をもとに編纂されたテキストを読み進めながら、ドイツ語圏の文化への理解も深める。			
授業の目的 ドイツ語の初級文法を修得する。初歩的なドイツ語の読解力を確実に身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
平易なドイツ語の文章が読めるようになる。 モーツァルトのオペラやその背景を知ることができる。 ドイツ語検定試験3級に合格できるドイツ語能力を獲得することができる。			
成績評価の方法と基準 授業への参加状況が評価の中心になるが(85%)、期末試験の成績(15%)も含めて、総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ※この講義は基本的に対面で実施します。			
<p>テキストを分担して読み進めていく。</p> <p>(1) オリエンテーション (2)～(15) テキストの読解 (16) 期末試験</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 語学に王道はありません。単語や文を発音したり紙に書いたりして、地道に語彙をインプットしていきましょう。 オペラをじっくり鑑賞したい場合は、図書館のラーニングコモンズの視聴覚ブースで、小学館 DVD BOOK『魅惑のオペラ』を利用してください。</p>			
教科書・参考書等 教科書:『魔笛』 カウフマン (第三書房) 1200円 参考書:『必携ドイツ文法総まとめ-改訂版-』中島・平尾・朝倉著 (白水社) 初中級の学習に耐える独和辞典(『アポロン』、『アクセス』など、1年次に使用した辞書で可)			
オフィスアワー 水曜1時限目、またはメール等での相談。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と出席が必須であることは言うまでもない。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332452) 外国語演習 I (中国語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	全学共通の中国語Ⅲ	
	履修推奨科目	アジア社会論、アジア経済論、アジア文化論、中国文化論	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習4.5時間+事後学習1.5時間)			
授業の概要 中国語学習1年半以上のレベルを対象に、現代の様々な形式の中国語文を理解する。雑誌の簡単な記事を読むほか、ドラマ、バラエティ、ドキュメンタリーなどの中国語文を題材とし、日本語との置き換えを念頭に、よく使用されるフレーズを学習する。 この授業は対面で行う。			
授業の目的 既に学習した語法や語彙が、実際の場面でどのように使われているかを確認しながら、中国語の言い回しに慣れる。(DPの「言語運用能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 日常使の文章に使われる中国語のうち頻出する表現に慣れる。 2. 日本語でよく使うフレーズは中国語でどう表現されるかを理解する。 3. 新聞、雑誌の表現に慣れる。 4. 中国語の自然なスピードで文を読むことができる。 5. 頻出する漢字の発音は辞書を頼らずに発音できる。			
成績評価の方法と基準 授業の予習状況と授業時間内の各種練習の成果による。最終試験の比率は40%。平常のエクササイズと課題の得点は60%で、その得点に出席率をかけて判定する。また5回欠席した学生は受講したものとみなさない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1週 使用教材の配布と以後の準備方法の説明 第2週～第6週 ドラマの中国語 第7週～第10週 バラエティ番組の中国語 第12～15週 アニメ、ドキュメンタリー番組などの中国語 また全回を通じて随筆・読物による練習を行う。			
学習の方法 指示された部分について音読できるようにし、訳文を書いておく。辞書を使う際、できるだけ手書き入力を利用せずに発音から引くよう心がけること			
【自学自習のためのアドバイス】 担当回においては字幕を簡体字で筆写し、ピンインを付ける。なぜ字幕のような中国語になるかについて、既習の語法を復習して、説明できるよう準備する。(1.5時間)			
文章教材について、発音を調べ音読できるようにするとともに、訳文を作成する(3.0時間)			
指定された部分を字幕の速度で発音できるよう練習する(1.5時間)			
教科書・参考書等 教科書は不要だが、中日辞典(小学館)レベルの辞書は必要。電子辞書でも可。			
オフィスアワー 月曜 5時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 共通教育の中国語4単位以上修得している学生が履修できるが、中国語Ⅲb既修レベルの方が望ましい。(グローバル人材プログラムの学生は上記単位数の限りではない) 字幕の多くは繁体字で付いており、簡体字、繁体字双方に慣れてもらう。 「高学年教養科目」として履修する場合も、2年次以上で上記条件を満たした者に限る。 (中国語検定3級、HSK4級以上を既に取得している1年生は受講を認める場合があるので、直接担当教員に照会すること)			

ナンバリングコード B3GE0-ecbE-30-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 333201) 地域活性化論 Regional Vitalization Studies	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 ecbE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	とくになし	
	履修推奨科目	とくになし	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 + 事後学習60時間)			
授業の概要 農山漁村地域・多自然地域での活性化を中心に、地域活性化全般について講義する。先進事例を中心に活性化手法について説明する。また、教員が携わっているフィールド(地域)での取組みとその手法についても解説する。 授業中に受講生の考えを発表する機会を作るので、能動的な姿勢での受講が求められる。単位認定の条件として、受講生は各自でまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムのツアーに参加すること。(新型コロナウイルス感染症の影響により授業方法やレポート課題が変更になる可能性がある)			
授業の目的 地域活性化に必要な知識を習得する。グリーン・ツーリズムなどの観光やアートによる地域活性化等の事例を知ると同時に、地域の課題解決方法についても理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・農山漁村を中心に地域活性化の現状についての知識を習得できる。 ・グリーン・ツーリズムなどの観光やアートによる地域活性化等の事例についての知識を習得できる。 ・地域の課題解決方法について理解できる。			
成績評価の方法と基準 ①受講生各自で参加したまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムツアーについてのレポート(形式自由。800字程度) 40% ②期末テスト 60% (新型コロナウイルス感染症の影響により、授業方法・成績評価の基準が変更になる可能性がある)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 地域活性化とは 第2回 経済的地域活性化 第3回 地域商社 第4回 観光による地域活性化 第5回 観光DMO 第6回 グリーン・ツーリズム① 第7回 グリーン・ツーリズム② 第8回 アートと地域活性化 第9回 移住・定住 第10回 関係人口 第11回 ワークーション 第12回 地域公共交通 第13回 瀬戸内海と里海 第14回 域学連携事業 第15回 観光情報 ※進捗状況等によって内容や順番が変更することがある。 ※この科目は基本的に対面授業を行う。なお、状況によっては授業形態を一部遠隔へ変更する可能性がある。			
自学自習について ・各回について、講義内容の復習をしながら、授業で紹介した事例等について各自で調べ、理解を深める。(15回×2時間=30時間) ・レポートの作成をする。(15時間) ・期末試験の準備をする。(15時間)			
教科書・参考書等 とくになし。参考文献は講義時に適宜紹介する。			
オフィスアワー 木曜2限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 地域活性化、とくに農山漁村、多自然地域での活性化に興味のある学生の受講を希望する。			